

今月の題字

櫻井花香さん

(新里町山上 6年生)

1月に足利屋で開催した窪塚書道教室展に出品してくれた花香(はるか)さん。習字も上手でしたが絵も最高ですね。2月にふさわしい題字をありがとうございます。

虹の架橋は足利屋・さくらもーるアスクが毎月1日発行する地域新聞です。

第270号

平成30年2月1日発行

企画・編集 松崎 靖

発行 (株)足利屋洋品店

みどり市大間々町4-1380 (〒376-0101)

TEL 0277-73-1212

Fax 0277-70-1066

虹の架橋



絵手紙で見る虹の架橋の歴史 二十八日まで富田栄子絵手紙展

平成九年四月、大間々町と鳩ヶ谷市(現川口市)が姉妹都市になつたことがきっかけで富田栄子さんと知り合いました。以来、毎月虹の架橋の感想や近況がイラスト入りのハガキで届きます。二十年前からのハガキを読み返してみると富田さんの明るい人柄と温かい優しさが伝わってきます。

最初の年に頂いたハガキ

は二十年前。

大間々祇園祭

の仮装大会に参加した鳩ヶ谷の富田

さんのグループが優勝して

三十万円を獲得しました。

その年は私達

「第四区」が四年連続優勝

しました。

横田老師は昭和三十九年生れ。

伊東掃除に学ぶ会年次大会の横

記念講演で鎌倉円覚寺管長の横

田南嶺老師の話を聴きました。

谷のアイデアと演技力に完敗でした。翌年は、私たちが鳩ヶ谷市民ふると祭りの仮装大会に参加して優勝を飾ったこともいい思い出です。富田さんが描くイラストの題材は、やつちやん日記のダジャレ、下ネタ、失敗談をユーモアたっぷりに描いたものが多く、絵を見ただけでもその時の方が楽しく思い出されます。全国で虹の架橋を読んでくださる方は、筆まめな方が多く、毎月いたくハガキや手紙やメールが虹の架橋を続ける原動力となり、宝物になっています。お陰様で今月が二七〇号です。

今後とも虹の架橋と足利屋とアスクをよろしくお願ひ致します。感謝!

世界一小さな足利屋トイレ美術館

今月の作品《270》

山崎尊琉くん『上電電車』

上毛電鉄の運行車両に子どもの絵を飾る「上電うごくギヤラリー児童絵画展」の小学校高学年部で最高賞の群馬県知事賞を受賞した山崎尊琉(たける)君(大間々東小五年)の作品。受賞式で尊琉君は「上電が大間々の町を悠々と走る姿を描きました。電車内に展示されている作品を家族で見たいです」と話していました。絵を見ていると、電車が走り抜ける音や風まで感じられます。今月は足利屋で原画をご覧ください。

この絵画展で大間々東小五年の岡玲那さんの作品も上電うごくギヤラリー賞を受賞しました。

靖ちゃん日記

やつちやんの似顔絵提供..ひさかさん

四時半起床・満天の星・東の空に有明の月が白く輝いています。新聞を読み、手紙の返事を四通書く。お湯を沸かし、ポットに入れ六時前に大間々駅へ。改札口の温度計は氷点下六度。この冬一番の寒さだつた。女子トイレの洗面台には今朝も花が飾られていた。松と南天とスイセンの花が正月の雰囲気だれが飾ってくれているのか、心が和む。今朝の参加者は六人。雑巾もスポンジもあつという間に凍つてしまつ。床は氷洗いしないことにして。掃除が終わり、風呂に入お湯を専用バケツに移し、「松の湯」と称してかじかんだ手を順番に温めてもらう。湯加減は?と聞くと、「ア」と、「イ」と、「最高」とみんなが恍惚の声を上げる。最後に自分でも手を入れてみた。熱すぎずぬるすぎず、ちょうどいい湯加減。「ア」と、「イ」と、「サイコ」と声を上げた。そういうえば最近、こんな声を出し始めたことも聞いたこともなかつた。



小耳にはさんだ
いい話
(文責・靖)
《270》

鈍刀を磨く

「鈍刀を磨く」という詩から
も大切なことを学びました。

「困難は自己
を磨く砥石」と
いう言葉を思い
出しました。

今から二十年前、坂村真
民さんからおハガキをいた
だきました。「詩縁を感
謝いたします。お互いしつ
かり生きてゆきましょう」

元日に届く年賀状は正月
の何よりの楽しみです。

そして、小正月には年賀
状の当選番号を見つける
が楽しみの一つです。

今年は三等のお年玉切手シートが
十二枚当たっていました。景品の
切手を使って、当たりハガキをく
ださつた方に報告を兼ねて寒中見
舞いを出すのも毎年の決めごとに
しています。「小さなことに喜べ
る人、感謝で生きる人ほど幸せだと
思います。感謝こそ人生を潤す花をたくさん咲かせてみたいと願っています。

秀三郎さんから教わりました。

今年も人生を潤す花をたくさん咲

かせてみたいと願っています。

かせてみたいと願っています。